

2018 年度 事業報告

1. 概観

2018 年 1 月 31 日、甲斐田万智子代表理事が、子どもの権利が守られなければならないことを一貫して訴え続け、NGO 関係者に大きな影響を与えてきた功績が認められ、アーユス NGO 大賞を受賞しました。

子どもの権利の中でも、子どもが暴力から守られる権利を実現するために子どもに対する暴力撤廃日本フォーラムの活動やそのテーマに関する執筆活動にも力を入れました。

また、子どもの脳を傷つけない子育て講座や「子ども時代の逆境体験が及ぼす個人と社会への影響」をテーマとした講座の開催を本格始動した年でもありました。複数の大学、および、静岡の学童クラブの指導員さんたちを対象にシーライツの認定講師を派遣することができました。

カンボジア事業では、現地 NGO「カンボジア子どもの権利保護センター(以下、CCPCR、Cambodian Center of the Protection of Children's Rights の略)」との連携による活動を継続。3つの小学校及び地域のおとなとの連携強化が CCPCR との協働により実現しました。その結果、60 名を超えるピア・エデュケーターが子どもの権利について広め、現地のニーズに即した子どもたち向けの英語や PC 教室の開催を実現することができました。

【カンボジア事業】CCPCR と連携した成果を徐々に感じられる 1 年となりました。3つの小学校で 60 名を超えるピア・エデュケーターが誕生したのは、学校や地域のおとなとの連携と過去にピア・エデュケーターとして活動していた子どもたちのサポートがあったからです。地域のおとなとの信頼関係を構築できたことは CCPCR との連携が大きな要因であり、これまで活動していたピア・エデュケーターが現ピア・エデュケーターの活動を支えてくれていることは、元シーライツ現地スタッフの努力があったからです。

2019 年 2 月に行った現地モニタリング時には、活動地にシーライツが入ってきてからは、子どもたちの出稼ぎが過去に比べてほとんどなくなったこと、子どもに対する体罰はほとんどみかけなくなったと、地域のおとなたちから聞くことができました。一方で、ピア・エデュケーターを含む子どもたちと行ったワークショップ内では「自分の権利が侵害されたと感じた」「悲しい気持ちになった」などの子どもたちの声をきくことができました。地域全体での子どもの物乞いや体罰が徐々に減っており活動の成果を感じる一方、子どもたちに対する暴力や、「子どもなんだから」という視点はまだ完全にはなくなっていないことがわかりました。

【国内事業】2018 年度は、児童虐待によって子どもが亡くなる悲しい事件が繰り返される中、シーライツとして虐待予防を目的とした子育て講座や講演を複数開催してきました。特に脳科学に基づく子育て講座の開催は好評で、LUSH のチャリティバンクの助成をいただき活動を継続しております。2018 年末にはシーライツの代表理事、甲斐田万智子がアーユス NGO 大賞を受賞。受賞を祝う会では日本国内で子どもの虐待防止に取り組む高祖常子さんと甲斐田との対談を行い、多くの方に子どもに対する暴力のない社会にするために大切なことは何か、共に考える機会を持つことができました。

他にも多様な背景をもつ子ども・若者の声を発信するためのセミナー開催やニュースレターの記事を発信。他団体と連携し、子どもに対する暴力や子どもの権利の普及をより強化するためのネットワークに参加、活動しました。

[事業]

カンボジア（継続事業）

- カンボジアのベトナムの国境沿いにあるスパイリエン州のタナオ・コミュニン（集合村）で「子どもの権利促進プロジェクト」を実施。子どもたちが、ベトナムなどに出稼ぎや物乞いに出されることなく学校に通い続けられるようにするだけでなく、子どもが親やその他のおとなから暴力に遭わない社会にするために、子どもから子ども・おとなへのピア・エデュケーションによる啓発活動を行った。
- 2017年に結成したピアエドゥケーター、学校の教員、地域住民とともに、地域の子どもの権利状況とどのような活動が必要かを考えた。
- ピアエドゥケーターを中心にパソコンと英語を学びたい子どもたちにパソコンの使い方と英語を教えるクラスを開催。
- 地域住民組織と協力して、コミュニティセンターの図書室・アクティビティルーム（あわせて「チャイルド・フレンドリー・スペース」）を運営管理し、子どもたちの学びとグループ活動をサポートした。

国内（新規事業）

- 7月に「子どもを誰ひとり取り残さない社会をめざして ～インドシナ難民と子どもの権利を考える～」セミナーを東京にて開催。難民や外国につながる子ども・若者たちが、自分たちより年少の子どもたちに対して学習支援をおこなってきた「すたんどばいみー」の若者2名とシーライツ代表理事の甲斐田が登壇。
- 『子どもが自分たちの権利を守る30の方法』（仮称）（合同出版）発行のため2018年末より原稿依頼と編集作業を開始。2019年度に出版予定。
- 2019年1月より1年間、ソーシャル・ジャスティス基金の助成を受け、「子ども自身によるアドボカシー促進のための子どもの権利普及事業～マイノリティの子どもに焦点をあてて～」を開始。

国内（継続事業）

- 主に「子育て講座」「子ども時代の逆境体験が個人と社会に及ぼす影響」についての講座、講演を開催。活動の一部についてLUSHチャリティバンクの助成を受ける。
- 2018年9月29日グローバルフェスタに参加。代表理事による活動説明会を随時、実施。宇都宮大学の学生ボランティア及び新加入ボランティアの協力を得て実施。
- 2019年2月2日に「甲斐田万智子のアユス NGO 大賞をお祝いする会」を有志実行委員と共催のもと開催。虐待予防に取り組む高祖常子氏と甲斐田万智子の対談を行う。
- Youth for Rights が活動を継続。ミーティングの開催や、英語教室に通う子どもたちとの交流活動を行った。

[組織運営]

- 2017年度の財政状況悪化を受け、2018年7月よりフルタイムスタッフ1名とインターン及びボランティアでの運営体制になる。不定期での無償ボランティアだけではなく、定期的に作業を依頼する有償ボランティアと新規インターン各1名を確保（どちらも2019年1月～）。
- 財政状況の改善をはかるべく、アドバイザー3名（NGO コンサル1名、企業関係者2名）及び企業の方のプロボノの協力を得ながら、これまで以上に経営強化するための組織体制の改善を図った。
- 理事会体制を再検討し、理事会の役割を明確にし、常任理事の制度を検討した。

2. 開発途上地域の子どもの支援事業

(1) カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」

<目的>

- ・ 子どもたちが「子どもの権利」や人身売買・児童労働の危険についての知識を身につけ、自分自身や周りの子どもたちを危険や子どもに対する暴力から守れるようになる。
- ・ 子どもたちが積極的に声を上げたり、意思決定の機会に参加したりすることで、子どもの視点が地域社会に取り入れられるようになる。
- ・ 次世代のリーダーが育成され、子どもたちの活動が地域住民のサポートによって継続されていく。
- ・ 子どもたちが継続して活動できるようにピア・エデュケーターの育成の仕組みを整備し、ピア・エデュケーターを支える教員を能力強化し、行政との連携関係強化をはかる。
- ・ CCPCR とタナオコミュニティの子どもたち、地元住民、教員、行政との協働活動によってピア・エデュケーションや子どもクラブなど子ども主体の活動の基盤を確立し、持続可能性を高める。図書館やチャイルド・アクティビティルームからなるチャイルド・フレンドリー・スペースの運営について子どもの意見を取り入れ、運営能力を高める。

◇主な助成・寄付: WE21 ジャパン、NTT 労働組合西日本本部、サッポロ関連労働組合協議会、尚綱学院大学、ほか。

【概要】

子どもたちが出稼ぎや物乞いに出されることなく学校に通い続けられるよう、①子どもの代表による「ピア・エデュケーション（子どもから子どもへ知識や技術を広める）」、②チャイルド・フレンドリー・スペースの運営を通して、子どもたちや親、地域住民に対して「子どもの権利」特に子どもが暴力から守られる権利と教育を受ける権利の重要性を伝える啓発活動を推しすすめた。③パソコン教室・英語教室の開催。

啓発活動

タナオ・コミュニティで 2017 年秋から活動してきたピア・エデュケーター（子ども代表）が CCPCR の職員から子どもの権利についてのトレーニングを受け、各家庭や地域で子どもやおとなに学んだ知識を伝えた。

子ども同士が助け合い、互いに学び、地域を良くすることをめざし、タナオ・コミュニティの「子どもクラブ」では、ピア・エデュケーターもワークショップに参加し、子どもの権利について考えた。

チャイルド・フレンドリー・スペースの運営と子どもの活動

図書室とアクティビティルーム（あわせて「チャイルド・フレンドリー・スペース」）を地域住民が組織した「チャイルド・フレンドリー・スペース運営管理委員会」とシーライツが共同で運営・管理した。

子どもたちのリクエストに答えて新しい図書を購入、貸し出しを行ったり、委員会メンバーが子どもたちに読み聞かせを行ったりした。福島の子どものが通う「青空保育たけのこ」からの募金で図書購入。

子どもたちの勉強をサポートするため、図書室に参考書を設置し、アクティビティルームを自習スペースとしても提供した。

カギとなるおとなの能力強化

教員とコミュニン評議会のメンバーを対象に CCPCR の職員から子どもの権利について研修を行った。

ネットワーキングとモニタリング

日本から理事・職員・インターンが現地へ赴き、コミュニン評議会女性と子ども委員会 (CCWC) や農業組合 (AC)、他団体 (NGO) を訪問、連携活動について話し合い、情報交換をした。

【成果】

- チャイルド・フレンドリー・スペースが子どもたちにとって学んだり自由に過ごしたりできる重要な場として機能している。
- 子どもたちがチャイルド・フレンドリー・スペースで「子どもの権利」を学び、さまざまな活動（ミーティングや研修、図書の貸し出し・読み聞かせ、文字の読み書きを教え合う、等）に参加することが、子どもたちの知識・自信の向上やエンパワーメントに結びついている。
- ピア・エドゥケーターたちの子どもたちを中心にパソコンスキル、英語の基礎知識を高めている。
- CCPCR のスタッフが学校の教員やコミュニン評議会メンバーとの会合やトレーニングなどを通して関係を強化し連携を深めている。その結果、責務履行者である教員や地域行政に携わるメンバーが、子どものサポートに積極的にかかわっている。

◇ タナオ・コミュニン事業のモニタリング

- 2018年8月、甲斐田代表理事、岡島理事がタナオの事業のモニタリングに参加した。ピア・エドゥケーター、学校の教員、コミュニン評議会議員や農業協同組合メンバーを含む地域住民とともに子どもの権利侵害、その問題の原因、今後必要な活動について考えるワークショップを実施した。また、ピア・エドゥケーターと意見交換をした。
- 2019年1月、2019年2月にそれぞれ南雲理事、甲斐田代表理事と奥山事務局長、インターンのジョシ・ディネシュがモニタリングを行った。CCWC のメンバー、小学校の教員とミーティングを実施したほか、農業組合のメンバーとも話し合うことができた。また、ピア・エドゥケーターとワークショップをし、子どもの権利の理解度および活動への積極性をグループワークを通じて認識した。

◇ シーライツが建設した学校のモニタリング

- 2月、2010年にスパイリエン州チャントリア郡に建設したプラサー小学校分校において、適切に教育活動が行われているかを視察した。学校に集まった校長先生、教員や児童から、ヒアリングをした。新しくつくられた教室では、ほかの学年の授業が行われていた。

(2) アドボカシー

カンボジア市民フォーラムを通じて、日本政府に対し、政治状況、人権状況が悪化しているなかで2018年の選挙支援を行うことに対して再検討するよう要望書を提出した。

3. 開発途上地域の子どもの権利状況に関する調査・研究・発信事業及び開発教育事業

(1) 報告会・ワークショップ開催

① 報告会・ワークショップ等

日付	名称	会場	参加人数
7/29 (日)	子どもを誰ひとり取り残さない社会をめざして ～インドシナ難民と子どもの権利を考える～	東京ウィメンズプラザ	20名
3/29 (木)	シーライツボランティア感謝祭 (ミニ勉強会)	人権ライブラリー	3名

② 講師派遣

日付	名称	講師・報告者	主催
6/4 (月)	PARC「ワンコイン・シネマ・トーク」差別や暴力と闘う途上国の女性たち	甲斐田代表理事	特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (東京)
6/16	サセックス大学同窓会	甲斐田代表理事	サセックス大学同窓会 (東京)
6/21 (木)	創立記念日の記念式典講演	甲斐田代表理事	栄光学園中学高等学校 (神奈川)
10/18	全国指導者養成講座『人身売買と人権』	甲斐田代表理事	人権教育啓発推進センター (東京)

理事及びアドバイザーの協力を得て実施。

③ 訪問受入れ

日付	団体・学校名	対応者	内容
10/4 (木)	アレセア湘南中学高等学校 生徒 合計 6名	渡邊奈美子 (理事) 奥山桂子 (事務局長)	活動紹介

④ 外部への協力 他団体とのネットワーク

日付	団体	担当	内容
随時	子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム	アドバイザー (甲斐田)	日本政府に対するアドボカシー活動
随時	JANIC チャイルドセーフガーディング勉強会/ワーキンググループ	甲斐田、奥山	他 NGO と協働したチャイルド・セーフガーディングの普及。コアメンバーとして参加。
随時	子どもの権利条約フォーラム	甲斐田、奥山	子どもの権利条約フォーラム開催実行委員として参加

(2) 広報

ニューズレターの発行、HPでのブログ発信及び Facebook、Twitterでの情報発信を随時行う。

2019年3月5日、テレビ朝日報道ステーションにて甲斐田代表理事が家庭内の体罰法制化について取材を受け、同日夜、放映される。2018年12月武蔵野市男女共同参画局より取材をうけて、機関誌「まなこ」に記事が掲載される。

執筆・投稿

発行日	掲載誌・掲載本	内容
2018年11月	N T T 労組新聞	連載「子供たちに未来を」(奥山)

(3) 研究活動・出版・制作

シーライツのこれまでの実践や実践から得られた知見を以下の書物にまとめた。

- ① 執筆「カンボジアの地方行政における子どもの権利保障をはかる仕組みの概要とその課題」(岡島理事、甲斐田)(大阪大谷大学人間社会学会誌こみゆにか第13号)(3月)
- ② 執筆「権利アプローチによる子ども支援とコミュニケーション」(甲斐田)『対人援助のためのコミュニケーション学』(文京学院大学総合研究所)(3月)
- ③ 執筆「子どもの権利実現における開発途上国と先進国の協働の可能性～子どもにやさしい社会づくりに焦点をあてて～」(甲斐田、南雲理事)(文京学院大学総合研究所 紀要19号)(3月)
- ④ 執筆「子どもに対する暴力撤廃に向けた WHO・アジア諸国の動向」(甲斐田)『子どもの権利研究第30号 子どもの権利条約総合研究所』
- ⑤ 子どもの権利条約採択30年を記念し、『子どもたちが自分の権利を守る30の方法』(仮称)発行(合同出版)のため2018年末より原稿依頼・編集を開始。2019年度に出版予定。

(4) イベント参加(出展)

日付	名称・内容	会場
9/29(土)	グローバルフェスタ JAPAN2018 活動紹介ブース出展	お台場センタープロムナード(東京)

4. 国連子どもの権利条約の普及事業、及び子どもの権利促進事業

国連子どもの権利条約の普及・促進事業

(1) 甲斐田万智子のアユス NGO 大賞をお祝いする会

日付	名称	会場	参加人数
2/2(土)	甲斐田万智子のアユス NGO 大賞をお祝いする会 高祖常子さんと対談「子どもへの暴力をなくしたい」	早稲田奉仕園 (東京)	約40名

有志の方を中心としたお祝い会を共催。第一部では認定 NPO 法人児童虐待防止全国ネットワーク理事の高祖常子さんと甲斐田の対談。第二部はこれまでシーライツを支えてくださった方々と共に懇親会を行った。

(2) 脳科学に基づく子育て講座の実施

日付	名称	講師	主催
12/16(日) 1/20(日)	富士市学童クラブ指導員研修	園田京子(認定講師)	富士市学童クラブ (静岡)
7/6(金)	子ども権利条約とその意義、日本の子どもの問題や児童虐待の心理学的影響などについての講義	園田京子(認定講師)	千葉大学 (千葉)
11/29(木)	横浜市立大学エクステンション講座 「子どもと共に育つ社会の実現のために」	園田京子(認定講師)	横浜市立大学(神奈川)
12/5(水)	横浜市立大学地域 CSR 論 「子ども時代の逆境体験が人の成長に与える影響」	園田京子(認定講師)	横浜市立大学(神奈川)

	～CSR の担える役割を考える～		川)
12/20 (木)	文京学院大学 NGO・NPO 論 「子ども時代の逆境体験が個人と社会に及ぼす影響～NGO/NPO が担える役割を考える～」	園田京子(認定講師) 奥山桂子(事務局長)	文京学院大学(東京)

アドバイザー協力のもと、認定講師の園田京子と甲斐田代表理事が実施。

(3) チャイルド・ライツ・プロジェクト

大学生を中心としたボランティアメンバーからなるユースチーム「Youth for Rights」がミーティングや英語教室の子どもたちとの交流を図った。

5. 国際・国内団体とのネットワーク

(1) 国際・国内団体とのネットワーク

参加ネットワーク団体

- ・(特活) 国際協力 NGO センター (JANIC) の正会員を継続 (甲斐田代表理事が理事を継続)
- ・児童労働ネットワークの団体正会員
- ・カンボジア市民フォーラムの会員 (甲斐田代表理事、岡島理事が世話人として)
- ・東日本大震災子ども支援ネットワーク (運営委員として)
- ・NGO 非戦ネット
- ・SDGs 市民社会ネットワーク情報会員
- ・子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム (GPeVAC)
- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会

(2) ネットワーキング活動

日付	内容
4/13	グリーンサポートせたがやイベント
4/17 6/11 6/12 12/3/7	子どもに対する暴力撤廃日本フォーラム (GPeVAC) ミーティング、スウェーデンの児童虐待防止に向けた取り組み、GPeVAC 関係者との面談、日本児童虐待防止学会理事との面会、各省庁担当職員とのマルチステークホルダー会合 (甲斐田) 院内集会イベント (小川、奥山、甲斐田)
5/10、7/19、10/29	JANIC による「チャイルドセーフガーディング」勉強会/ワーキンググループ (名称仮) (甲斐田、奥山、ジョシ・ディネシュ)
5/23 6/27 7/8、8/11 10/13	カンボジア市民フォーラム世話人会 (岡島、甲斐田) カンボジア総選挙直前セミナー、プノンペンにおいて CCC (NGO 連絡協議体) 事務局長と会談 セミナー「カンボジアのいま -2018 年 7 月「総選挙」後、どうなる、どうする」 ~1993 年 UNTAC 総選挙から 25 年、現在のカンボジア政治・人権状況を検証する～」
5/25、6/29 7/30 9/13 12/18 1/18	JANIC 理事会、総会、理事会、役員職員合同会議、「新たな国際協力を考える会」参加、役員選考委員会 (甲斐田)
6/18-20	CRC Asia 主催の会議に参加 (マニラ) (甲斐田)
3/7	東日本大震災子ども支援ネットワーク「第 17 回東日本大震災子ども支援意見交換会」参加。(柳葉)

3/14	広げよう！子どもの権利条約キャンペーン実行委員会（甲斐田、奥山）
------	----------------------------------

6. その他、この団体の目的を達成するために必要な事業

(1) 4回理事会を開催。

5/27（日）	第 65 回理事会 開催場所：JICA 地球ひろば 議題：代表・副代表の互選
7/29（日）	第 66 回理事会 開催場所：東京ウィメンズプラザ 議題：中期計画の見直し及び組織図、国内事業図、定款の整理
12/22（土）	第 67 回理事会 開催場所：東京事務所 議題：2019 年度理事会体制見直しほか
2/2（土）	第 68 回理事会 開催場所：早稲田奉仕園 議題：2019 年度事業案ほか

(2) 各事務所の組織運営

東京事務所	事務局長、会計総務のスタッフ、ボランティアスタッフ、渡邊理事が事務作業（会員管理、会計、問合せ対応、助成金申請、総務労務、広報、シーライツトレード事業等）を分担。
カンボジア事務所	協働団体 CCPCR のスタッフ数名にて業務を遂行。

(3) 資金調達

① 助成金

[採択]

団体名・助成金名	金額	助成内容
子どもの人権連	10 万円	チャイルド・ライツ・プロジェクト
あんのん基金	20 万円	カンボジア・プロジェクト
LUSH チャリティバンク	689,500 円	国内事業
ソーシャルジャスティス基金	100 万円	国内事業
アジアコミュニティセンター 21	359,000 円	カンボジア・プロジェクト(留学生インターンの活動支援)

② 団体大口寄付（10 万円以上）

寄付者	金額	指定寄付内容
WE21 ジャパン各支部	30 万円	カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」
NTT 労働組合西日本本部	50 万円	カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」
サッポロ関連労働組合協議会	142,450 円	カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」
尚綱学院大学	112,159 円	カンボジア「子どもの権利促進プロジェクト」

③ 会員

2018 年度会員総数 個人会員 94+団体会員 2

内訳

正会員合計 (前年比)	一般正会員	学生正会員	子ども正会員	
36 (2%増)	36	0	0	
賛助会員合計 (前年比)	一般賛助会員	学生賛助会員	子ども賛助会員	団体賛助会員* (口数)
39 (63%減)	38	0	0	1 (1口)

- ・団体賛助（法人）会員は、WE21 ジャパンちがさき
- ・スタディツアー実施時に賛助会員になっていた学生賛助会員が未継続となったため賛助会員が減少。

④ マンスリーサポーター

2008 年に開始した毎月一口 1,000 円からの寄付金制度。3 月末時点で登録者は 94 名。（2018 年度は、4 名が解約し、4 名の新規申し込みがあった）

⑤ ファンドレイジング

アドバイザー及びプロボノボランティアより不定期にて組織運営、収支状況の共有、アドバイスをもらう。昨年度より収益事業化を目指している講師派遣について、アドバイザー及びプロボノボランティアの協力のもと数多く実施することができた。

甲斐田の留学同窓生を対象にしたチャリティディナーの実施。

⑥ 社会起業家との連携

遠藤明子氏のパーソナルケアプロダクト「La Lumpini」の商品の売上の一部として 40,000 円がシーライツに寄付された。（株式会社レイジー・スーザン／グリーンスタンプ株式会社 協力）

(4) 理事・職員研修

- ① 「セクシュアルハラスメント等を含む人権侵害防止および対策に関する規定」に基づいて理事・事務所職員に対するセクシュアルハラスメント防止の研修「私たちのジェンダー意識を問い直す ～なぜ日本では性暴力の被害者が責められるのか」（講師：濱田すみれ氏）を実施。
- ② JICA2017 年度 NGO 等提案型プログラム「海外活動」と「広報・ファンドレイジング活動」その両輪を駆動させるための研修 NGO「オンリーワン戦略講座」に渡邊理事と奥山事務局長が 2018 年 1 月～8 月にかけて参加。
- ③ 2018/9/6 アーユス NGO 勉強会「ブレイクスルーを起こし、組織強化を実現するためには」に事務局長が参加。
- ④ 台東区社会福祉協議会による財務・労務の無料相談を事務局長が随時活用し組織の状況に応じたアドバイスを専門家より受ける。

以上